

幼保小接続カリキュラムリーフレットについて

1 接続カリキュラムリーフレットの作成

(接続カリキュラムリーフレットは、別添のとおり)

市内の幼稚園、保育所等と小学校が連携して接続カリキュラムを編成、実施し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図ることを目的として、市内の小学校区の取組事例やカリキュラム作成手順を記載した接続カリキュラムリーフレットを作成した。そのリーフレットを市内の就学前施設と小学校へ配布し、取組事例を発信することで、各小学校区における接続カリキュラムの編成を推進する。

2 「接続カリキュラム」とは

就学前施設と小学校がお互いの教育内容を理解して、「育ちと学び」を円滑につなげるために作成するアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムをつなぐカリキュラム。各小学校区で編成することで、施設類型を問わず、小学校教育との円滑な接続につながる。

「アプローチカリキュラム」…幼児期にふさわしい生活を通して、この時期ならではの資質・能力を育み、小学校の生活や学びにつながるように工夫されたカリキュラム
「スタートカリキュラム」…小学校へ入学した子どもが、幼稚園、保育所、認定こども園等の遊びを通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム

3 接続カリキュラムの必要性及び現状

令和2年度に東山中学校区で接続カリキュラムを編成して取組が始まった。また、令和2年度には米子市教育委員会において米子市版スタートカリキュラムリーフレットを作成、周知したことで、小学校ではスタートカリキュラムの編成が進んだ。

就学前施設でもアプローチカリキュラムの編成が進んでいるが、就学前施設単独での編成が多く、小学校と連携をして編成している就学前施設は少ない。

半数以上の就学前施設は小学校との連携に課題意識があり、行事の交流等にとどまり、資質、能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていない現状がある。

4 接続カリキュラム編成に向けた取組

上記の背景からの課題を受けて、県の「令和3、4年度幼保小接続推進リーダー育成事業」及び「長期社会体験研修事業」を活用して、令和4年度に接続カリキュラム編成連絡協議会を立ち上げた。どこの就学前施設に通っていてもどこの小学校に入学しても滑らかな接続ができる体制整備として米子市共通の接続カリキュラムの様式を作成し、この度リーフレットとしてまとめた。

5 接続カリキュラム編成により期待される効果

- ・それぞれの発達段階を踏まえた適切な保育、教育を充実させることができる。
- ・学びの視点を明確にした保育・教育が展開したり、幼児期に培った力を授業に生かしたりすることができる。
- ・各小学校区での編成につなげることで、施設類型を問わず、幼児教育の質の向上と小学校教育との円滑な接続につながる。

6 今後の予定

令和5年3月、接続カリキュラムリーフレットを市内の就学前施設と小学校に配布した。

今後、令和5年度に、園長、校長連絡会等を計画し、接続カリキュラム編成の推進を図ることとしている。